

2025年、令和七年、そして巳年がスタートしました。『巳』は蛇が脱皮を繰り返す姿から、進化し続けることや新たに生まれ変わること、転換や自己改革の象徴とされてきました。己の殻を破るような経験をして、柔軟にしなやかに一年を素晴らしい日々にししましょう。

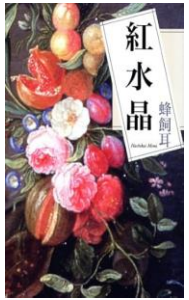
作家特集 『蜂飼耳』

今年の大学入学共通テストの国語の現代文に蜂飼耳（はちがいみ）著『繭の遊戯』が出題されました。「共テ国語」がXのトレンドに上がり、蜂飼耳さんへの関心が高まりました。『繭の遊戯』は、KADOKAWAが発行する小説誌『野性時代』に掲載され、人気作家30名による掌小説集の『ひと粒の宇宙』として発行されています。詩・絵本を多数手がけている蜂飼耳さんですが出版されている小説集は二冊です。独特の世界観や、詩人ならではの研ぎ澄まされた言葉で描かれる物語です。



『ひとり暮らしのそみさん』

一人暮らしのそみさんのところへ、ある日突然一匹の大きい鳥と一匹の小さい鳥がやってきました。一人と二匹の楽しい生活は長くは続かない。鳥は渡って行かなければならないし、一匹がいなくなり、また一匹がいなくなる。また一人になって前向きに過ごすそみさんの姿から 日々の生活で感じる孤独や不安定な気持ちに、どう向き合えばいいのか感じ入ることができます。



『紅水晶』

『崖のにおい』『こぼれ落ちる猿の声』『くらげの庭』『紅水晶』『六角形』『転身』タイトル同様の奇妙な語の連なりと、それでもどこか収まりのいい音の響きの妙が感じられる五編の短編集です。静かで繊細な世界観の中で物語は進みますが、必ずしもエンディングがラストシーンではないストーリーに読み手の心が揺さぶられるのではないのでしょうか。



蜂飼耳（はちがいみ）
1974年生まれ
詩人・小説家・立教大学文学部の教授
2002年 詩集『いまにもうおっていく陣地』
第5回中原中也賞を受賞

蔵書の寄贈報告



図書委員の中島連君と、鈴木大志君が丁寧な筆で寄贈者名を記入してくれました！

藤原頼美先生より、『日本の古典全集全21巻』をご寄贈いただきました。わかりやすい現代語訳と写真や絵画が豊富に掲載されている価値ある全集です。古典ブームの昨今に知識を深めるための全集です。寄贈された本には、寄贈者名を裏表紙記入して登録していますので、図書館にある本の裏表紙を時々チェックしてみてください！

新春恒例企画 『本の福袋』

図書委員が選んだ福をもたらす本が入った福袋をご用意しました。毎年、大好評の企画です。中にどんな本が入っているのかは、袋を開けるまでのお楽しみです。ふだん自分では選ばない本、知らなかった著者、年の初めに読むのに相応しい本に出会える機会です。ぜひ、本の福袋を楽しんでみてください。

『福』を感じてもらえる内容は人それぞれだと思いますが、本の福袋から何か少しでも心が豊かになるように選びました。
副図書委員長 21HR 水野結良里さん



宮中行事 『歌会始』

新春恒例の「歌会始」が1月22日、皇居で行われました。今回の歌会始のお題は「夢」で、全国と海外からあわせて1万6000首余りの短歌が寄せられました。最年少で入選した延岡市の高校1年生森山文結さんの歌も、皇族方の前で披露されました。森山さんは、2年ほど前から趣味で短歌を始めたそうです。「夢」という文字を見た時に感じた、自分の将来への漠然とした不安や期待を詠み上げたということです。同世代の高校生が詠んだ一首への想いを、感じ取ってみましょう。

ペンだこに
うすく墨汁染み込ませ
掠れた夢といふ
字を見てる



読んでみよう 『百人一首』

ウィンドウの展示に百人一首の札を並べると、図書館に集まってくる小倉百人一首キング&クイーン！そして始まる百人一首小（？）会！ぜひ参加しに来てください。



『夢のなかぞら』大垣さな桑著 天才歌人・定家と万能の巨匠・後鳥羽院という、たぐい稀なる二人の人物が、鎌倉幕府のうねりの中で衝突しながらも完成させた百人一首。実朝の和歌の師となった定家、承久の乱で隠岐の島に流された後鳥羽上皇。小倉百人一首の秘話を 知る機会にしてください。



『百人一首という感情』最上タヒ著 歌人に突っ込みを入れるという、最上タヒならではの超訳が魅力の一冊です。lineで愛の告白をされてしまったら、皆さんもこんな風に返しているのではないのでしょうか。恋愛、四季、人生論、読むほどに千年前の人が身近に感じられて面白いです。



『私の百人一首』白洲正子著 雅びな言葉の響きを味わい、古えの詠み人の心を辿り、言葉に込められたことだまを感じてみませんか？一首一首の読みどころ、歌の背景、日本の和歌の歴史を、歌の心を知り、ものがたりを読み解くような面白さとほんものの風雅を楽しんでみましょう。



『超訳百人一首うた恋い。』杉田圭著 藤原定家が選定した百の和歌には、現代の私たちも共感できる普遍的な“人の思い”がみごとに詠みこまれています。「恋」の和歌にこめられた思いは、驚くほど昔も今も変わりません。恋の歌を中心に、コミックと超訳で魅力的に描かれています。

三年生の図書館利用について

・最終貸出日・・・2月3日（月）・最終返却日・・・2月12日（水）
～ 多読者の皆さん ～

36HR石田明日香さん	36HR松野昊史君	32HR福島紗弥さん	32HR赤堀涼花さん	35HR竹内仁之介君
38HR鈴木煌生君	37HR松崎紫音君	37HRモレノトシオ君	38HR守谷美咲さん	32HR中村日葵さん

3年間でたくさんの本を読んで、図書館を有意義に利用してくれたみなさんです。卒業後も読書で得たことを活かして各方面でご活躍ください！